

指定障害者支援施設

さやま園 ▼▲● だより

GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!



No.216

2022.MAR.



良い一年となりますように！

今年の元旦はとても良い天気、初日の出が綺麗でしたね。いつもひっそりと手を合わせ1年の健康などを祈願しています。

このコロナ禍で行動自粛せざるを得ない生活が約2年となり、ふと昔のことを思い出しました。私がさやま園に入職した頃の入所施設はまだまだ世間から誤解されることが多く、人によっては刑務所のような表現をされる方もいました。その中で、さやま園は入所施設で一生を終えるのではなく、入所施設を生活の学びの場として地域生活に向けた取り組みをすでに行なっていました。もちろん就労支援センターという言葉やジョブコーチ制度というものもありませんでした。企業就労に向けて外注作業を行い、大人としてのマナー、働くための姿勢や能力が身につけられるよう支援しながら、ハローワークに通い、また月曜日は新聞の求人チラシと睨めっこし、企業に電話をかけることが日課となっていました。就職に至るまでにはとても大変でしたが、毎年数名の方が就職し、しばらくはさやま園から会社に働きに行き、数年後には自立生活へと移行していきました。

今は、原則区分4以上という条件の方しか利用できないため、長年生活をしてきた方も含め高齢化・重度化が進み、支援内容も様変わりしました。これからも入所施設としての役割や使命は変わっ

ていくと思いますが、利用者本位の支援、個人の尊^{ちよう}重・尊^{そんげん}厳、文化的で豊かな生活などを大切にしながら、当たり前の生活が当たり前であるように生活を提供していきたいと思っています。

国は、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」として、保育士等・幼稚園教諭、介護・障害福祉職員を対象に、賃上げ効果が継続される取り組みを行うことを前提として、段階的に収入を3%程度(9,000円)引き上げるための措置を、本年2月から前倒しで実施することとしました。福祉の仕事^{こころざ}を志した方で、高収入を期待して入職した方はあまりいないと思いますが、志だけでは生活がままならず離職した方も少なくないのも事実です。このような事態になってからエッセンシャルワーカーと騒がれ、その必要性・重要性を論じられることに疑問を感じますが、社会が目を向けることになったことは嬉しいことです。

今年度の年末年始も利用者は帰宅することが出来ませんでしたので、昨年同様さやま神社でのお参りや獅子舞も登場した新年会を実施しました。

SDGs^{にわ}が俄かに騒がれ、具体的な行動変容が求められる社会へと変わろうとしています。今年も続く激動の一年が、どうか安らかで、人にも環境にも優しい良い一年となりますように！

靴の訪問販売



昨年の11月、靴流通センターを運営している株式会社チヨダさんに靴の訪問販売に来ていただきました。これはチヨダさんが提供されている「HOME de SHOES(ホームでシューズ)」というもので、直接店舗に行けない人が、商品パンフレットから事前に気に入った靴を選び、それを販売員が持参し、実際に試し履きしながら購入できる訪問販売サービスです。

さやま園がこのサービスを利用した理由としては、利用者の靴が全体的に古くなっていること、古く不衛生な靴は水虫などに良くないなどの意見が職員から出ていたことです。

また、コロナもあって利用者を連れて靴を購入する機会がとて少なくなっている事から、訪問販売をしている所を探したという経緯があります。

試着しないと同じサイズを購入しても足に合っていない等失敗も多く、一度に多くの利用者を連れていく事や、まとまった数の靴を購入する事ができない場合もあります。コロナ以前から訪問販売のニーズはあり、これを機に今後も活用できるのではないかと思います。

訪問販売の当日は、事前にサイズや靴の種類を利用者に確認して先方に伝えていた為、スムーズに試着する事が出来ました。本棟(女性みのグループ)の利用者は1足でなく何足か買う方もいたそうです。特に女性は色や形を気にする方も多く、事前に選んでいたもの以外にも目移りしてしまい、迷われた方もいたとか……

場所はホールを使い、コロナ対策のため3名ずつの対応とし、サイズや歩き方を確認してもらい購入しました。販売員の方に、丁寧^{ていねい}に説明して頂き、利用者も大満足でした。

このさやま園での訪問販売の様子は、株式会社チヨダさんの販売所のブースでも写真を掲載するの事です。掲載された際は私も是非見たいと思います。



つま先は余っていないかちゃんとフィットしているか確認していただいています。



沢山の靴を持ってきていただきました。

令和3年度 さやま園のヨモヤマ話

今年度もあとわずか
各グループがどのような1年間を過ごしたか
それぞれの担当者に振り返ってもらいました。

つくし

つくしグループの特徴は介助度が高く、比較的高齢の利用者が多いことです。そのため他のグループと比較すると、日中活動やリハビリを通じた介護予防を中心に、ゆったりしたペースで生活しています。

また寅さんが大好きな方が多く、DVDを流すと皆さんテレビ画面を食いつくように観ていることがとても印象的です。

今年1年を振り返り、日々の生活で楽しみにしていることは何か、つくしの利用者にインタビューしました。➔

グループとして今年1年を振り返ると、なんとといっても“新たな試み”が印象に残りました。つくしGでは車椅子の利用者が多く介助度が高いことに伴い、今年度試験的に「ささえ手」という介助器具が導入されました。これまで職員・利用者共に介助器具を使うことにあまり馴染みがありませんでした。しかし実際に使ってみると・・・とても使いやすい!介助され慣れていない利用者も、安心して移乗ができています。とても役立っているのです。職員間では「ささえ手君」と呼ぶこともしばしば(笑) ささえ手君には感謝です。グループの利用者支援目標に定められている「介護技術の習得」にも役立ちました。日々の介助における質の向上が、利用者の安心・安全の生活に繋がっていることを再確認できた時間でした。来年度も利用者の安全で健康的な生活を心がけていきたいです。

文：望月・入口

S・Tさん「おやつ!甘いものが大好物だから。あとお風呂も好き。」

S・Eさん「作業。おもしろくて好きだから。」

I・Aさん「今は行けないけど旅行!いけるようになったらまた行きたい。あと新年会の餅つきも楽しかった。」

・・・等さまざまな感想をいただきました。



「ささえ手」使用の様子

すみれ

すみれグループでは、今年度 新型コロナウイルス感染予防の為に消毒に使う「布切りのお仕事」を余暇時間におこないました。

コロナ禍において「消毒」は日常生活に欠かせないものになりました。当園でも感染予防のため園内くまなく消毒するのですが、その布の消費量は膨大でした。布は職員たちに寄付を募り、その集まった布を使いやすい大きさにカットする作業は、すみれグループや地域のボランティアの方々がおこなってくれています。

看護師たちから「週末の余暇時間を利用して、布切りをお願いできないか?」と依頼されたのが始まりでした。

元々、手芸が得意で器用な方が多いすみれグループ、サクサクカットしていました。

With コロナはまだしばらく続きそうです。今年度に引き続き次年度もすみれグループの「布切りのお仕事」はフル稼働の様相を呈していますが、ハサミを動かす皆さんの表情は、人に感謝され何かに貢献しているということを実感しているからでしょうか、少し誇らしげです。

文：人見



あんず・かえで

さやま園本棟2階ではあんずとかえでグループ33名の利用者さんが生活していらっしゃいます。

さてカルミア216号、各グループの振り返り記事とのこと…。

何を書こうかと思い悩みましたが、利用者の皆さんに1年間を振り返ってもらってはどうかと、インタビューをしてみることにしました。

とはいっても2階利用者33名全員にインタビューとなるとすごいボリュームになってしまいます。そこで代表して4名の方に1年間を振り返っていただきました。では藪崎さん・瀧さん・大野さん・木村泰子さんの4名が快く答えてくださったインタビューをご覧ください。

【1年間頑張ったこと 4月から新たにやりたいこと】

職員：皆さんインタビューにご協力ありがとうございます。ではさっそく今年1年間、頑張ったことなどあれば教えて下さい。また4月から新たにやりたいことがあれば教えて下さい。

藪崎さん：「くれあ」でアクセサリ作りを頑張った。

大野さん：私も「くれあ」で普段は帽子（編み物）など色々作ったよ。

木村さん：私も「くれあ」だけど、刺し子や絵を描いたりして過ごした。

職員：3人共活動グループ「くれあ」ですね。藪崎さんは実際に作ったアクセサリをしていて

素敵！

木村さん：素敵。私も来年はアクセサリ作りしてみたい。

藪崎さん：一緒にやろう。教えてあげられるよ。

職員：瀧さんは1年間何が楽しかったですか。

大野さん：瀧さんは陶芸と一緒にやってるね。

瀧さん：コーヒークップ・ソーサーを作った。この前は自分で作ったものを使ってコーヒードrinkも飲んだよ。

木村さん：私も陶芸もやってる。大野さんと2人で植木鉢もつくったんだよね。

大野さん：瀧さんは他グループの利用者さんと一緒にやったんだよね。

瀧さん：楽しかった。来年も続けたいです。陶芸もあおぞらでの運動も頑張りたいです！

職員：色々な物を制作することができてよかったです。来年の目標もあるようなので、ぜひ頑張ってください。



今回は1年間の振り返りとのことと、利用者4名の方にお話を伺いました。利用者の皆さんも「コロナウイルス」が危ない病気である事を感じながら、少しばかり窮屈^{きゆうくつ}だけれど頑張って過ごしてきた1年だったかと思います。今回の4名のみならず、利用者皆さんそれぞれの「やりたいこと」が叶う未来が早く来ると良いなと感じています。

文：野島

わかば

今年度、わかばグループに新しく入所した方がいます。

その名前は!!竹内雄貴さんです!!去年の8月に入所しました!

音楽が大好きで、いつも週末にはカラオケがしたいと言っています。ファルセット^{くし}を駆使した独特のハイトーンボイスで、『おかあさんといっしょ』の曲を歌っています。

カラオケ以外にも余暇の時間は居室でDVDを見ながら一緒に歌うのが日課です。大きな声で廊下にまで彼のハイトーンが響き渡ります。しかも歌詞は全部覚えており、画面の字幕を見なくても歌えるほどです。

年度末ということで来年度の目標を聞くと、陶芸をやってみたいとのこと。好奇心旺盛な竹内さん、今後も色々々とチャレンジできるといいですね。これからも、わかばグループの仲間と一緒にさやま園で楽しく生活してきましょう!

文：柳川・安藤



今回は利用者みんなが楽しみにしている月1回のケーキの日が紹介されました。

今回はより具体的な食事の提供にまつわる部分を特集したいと思います。

さやま園では利用者の身体機能、主に嚥下機能^{えんげ}に合わせて様々な食形態で食事が提供されています。

今回はその食形態を元旦に提供されたおせち料理でご紹介します。

常食→一口大→キザミ→極刻み→ミキサーの順で嚥下しやすくなっています。形態は異なりますが、味だけでなく見た目でも食事を楽しめるよう、調理の皆さんが工夫を凝らして盛り付けてくださっています。華やかなおせち料理を心待ちにしていた利用者も多く、笑顔溢れる元旦になりました。



常食おせち



一口大おせち



キザミおせち



極キザミおせち



ミキサーおせち

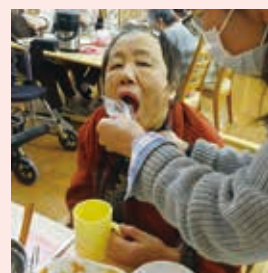
また年齢を重ねるにつれて身体機能に変化が現れますが、そんな時はPT・OTの先生から嚥下機能の評価を受けます。食事における細やかなアドバイスをもとに提供方法や食形態を変更し、利用者が安心して食事できるよう支援しています。

投薬方法も同様に、嚥下機能に合わせて違いがあります。医務が準備した薬を食前・食後に支援員が細心の注意をはらって、ひとりひとりに投薬しています。粒状の薬を直接口に投薬する人、粉薬をトロミが付いたお茶に混ぜて服用する人、お湯に溶かして液体で服用する人など多様な方法があります。いくつかを組み合わせる場合もありますが、利用者にとっても薬はお手の物!慣れた様子で上手に飲むことが出来ています。

毎日の食事やお薬が、健康で元気に生活することの基盤となり、利用者の日々の笑顔へと繋がっています。



トロミをつけた薬を投薬する様子



錠剤を直接口に投薬する様子



投薬粒+トロミ



投薬粉+トロミ



投薬前に薬を確認している様子

大根掘り～さやまたくあん再始動！



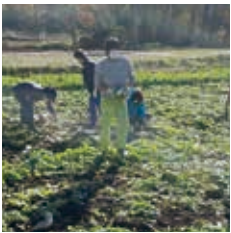
どんぐりの家

山梨県北杜市明野町には、さやま園の保護者会で管理している「どんぐりの家」という宿泊体験施設があり、利用者と職員が寝泊まりをしながら農作業や近隣の観光を楽しんでいました。

30 数年前から、「どんぐりの家」近隣でお借りした畑で大根を収穫、それをたくあんにして、施設内外で販売する一連の流れは、地域の方々と交流をはかる毎年の恒例行事となっていました。

去年はコロナ禍で中止となっていました。今年は事業・でんとうけいしやう伝統継承の必要性もあり、感染対策を徹底した上で、職員のみで大根掘り～さやまたくあん販売を行いました。

それでは今年の大根掘りの様子を追っていきましょう！



みんなで頑張って大根を抜いております。



漬物にするので、頭と尻尾は切り落として



せっせとトラックに積んでいきます。



どんどん積んでいます。大丈夫でしょうか？



持ち帰った大根の泥を落としてキレイにしています。



この後、一か月ほどで大根たちはたくあんとして生まれ変わります。

来年は利用者と一緒に、もっといっぱい大根抜くぞー！！



はい、こんにちは！広報委員会のナギカワ（以下 ナギ）です。
厳しい寒さから春の陽気が変わってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
さて何とか打ち切ることなく第三回をめでたく迎えることとなりました、
Start Me Up!～職員インタビュー～！今年度ラストを飾るゲストは…
前ページでの大根堀りでも大活躍だった、かえでグループ所属の田村政子さんです！
では行ってみましょう、

スタート・ミー・アーツ!!

■大先輩...

ナギ：突然すみません、今回の職員インタビューのゲストは田村さんです。

田村：いや、急過ぎますよ！2、3日前に言ってよ。(色々、準備があるんですから笑)。

ナギ：ホントごめんなさい。さて田村さんってかなりベテランですよ。20年くらいですか？

田村：20年もいませんよ笑。でもこないだ勤続15年の記念品もらったから、17、8年かな？

ナギ：おぉー（言葉遣いに気を付けよと...）、長くいらっしやますね。

■みつぼしのルーツ



いつも笑顔が素敵な田村さん

田村：笑。入社当初は9時に来て11時半に一旦帰って、13時半にまた来て16時に帰るという変則勤務でしばらく働いてましたね。今で言う日中活動を担当してました。午前中は手芸班で午後は生産班。

ナギ：あー生産班って、「みつぼし」(※現在、主にクッキー等を生産している日中活動のグループ)のルーツですね。

田村：そう。例えば生産班でも15年くらい前だと、まだ利用者の皆さんも若かったので、色々作りましたよ！えっと味噌、ジャム、梅干しに…あと塩の精製とか。

ナギ：塩？

田村：そう、古代の塩を取り寄せて、そこに異物が混じってるから取り除いてパックにするの。利用者さんもそういうの得意だし。

ナギ：へー！ずいぶん幅広くやってたんですね。それならさやま園の歴史というか昔話もやっぱり聞いておきたいですね！

田村：いっぱいありますよ...



大根堀りで大活躍の女性陣
(左が田村さん)

⇒続きは、さやま園 WEB サイト「<https://sayamaen.com>」にて掲載中です。
または PC カスマホから「さやま園」で検索してみてください。

編集後記

かんさ 寒気も少しずつゆるみ始め、春のおとずの訪れが待ち遠しいですね。

さやま園は、今年もおかげさまで皆さん元気に一年を過ごすことができました。運動会や夏祭り等、今年も様々な制限の中、工夫を凝らしながらたくさんの方の行事を開催しました。コロナ禍であっても、利用者さんの笑顔は変わらず楽しむ様子がありました。利用者さんの笑顔を見ると、私たちもつられて一緒に笑い、元気をもらいました。改めて、前向きに笑うことにより心と体の健康が維持されるんだなあ・・・としみじみ感じました。

広報委員 望月

